

うみっこ通信



滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM



ようだ まさはる
用田 政晴 学芸員



粟津貝塚（大津市）の調査場所

湖に沈んだ昔の村の なぞ

びわ湖の底には、^{こていせいせき}100箇所ちかくの湖底遺跡が知られています。「湖底遺跡」とは、昔の村やお祭りをしたあとなどが、今は琵琶湖の水の底にあるものをいいます。昔の茶碗、^{ちawan}木や石の道具、ときどきは銅でできた祭りの道具などが見つかるときもあります。用田学芸員は、そんな大昔の歴史の研究（^{こく}考古学といえます）を琵琶湖のまわりで30年以上つづけています。

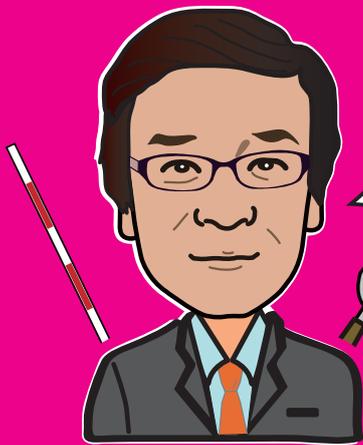
今回は、かつては陸地にあったはずの昔の村などが、どうして琵琶湖の底に沈んでしまったのかという不思議と、これまでの研究者による調査によって、わかってきたことを紹介します。

また、交流事業の活動「サテライト博物館事業」を紹介します。

2014.3
No.11

目次

- 1 今回の特集
- 2 湖底遺跡ってどんなもの？
- 3 湖底遺跡から何がわかるの？
- 4 うみっこトピックス
地域と学校を応援する「サテライト博物館事業」



湖の底は
なぞだらけ！

【研究紹介】 湖底遺跡って どんなもの？



【写真1】湖底遺跡の調査方法の展示

◎ 代表的な湖底遺跡ってどこ？

びわ湖の湖底遺跡としてもっとも有名なのは、びわ湖の北の端、竹生島近くの葛籠尾湖底遺跡です。漁師さんの網に、昔の土器(ちやわん)などがよくひっかかってきたため、見つかりました。水深が10数メートルから70メートルもの深いところに、縄文時代から平安時代までの約1万年間のいろいろな土器が、完全な形で沈んでいました。この遺跡は、今もなぞだらけです。



【写真2】葛籠尾湖底遺跡(長浜市)近くのびわ湖(左は竹生島)

◎ どれぐらいの深さの底から見つかるの？

葛籠尾湖底遺跡などは深いところにありますが、これは特別です。そのほかの湖底遺跡のほとんどは、湖岸近くで水の深さが4メートルよりも浅いところで見つかります。びわ湖の南の端で見つかった縄文時代中ごろ(今から約5000年前)の粟津貝塚も、深さ3メートルの底にありました。



【写真3】葛籠尾湖底遺跡で見つかった土器

◎ 生活のあとや使った道具が見つかるの？

水中での調査はむずかしいので、くわしいことはわかっていませんが、昔の家のあとや食べた貝の捨て場、石垣や井戸、木の柱なども湖の底に残っています。また、つぼやかめなどの土器やおのなどの石器のほかに、大昔の丸木舟などもたくさん見つかります。

◎ 湖底遺跡のとくちょうはなに？

木は、土にうずもれているよりも、水の中の方がくさりにくいので、丸木舟などのほか、米づくりや魚とりに使う木の道具が、そのまま残っている場合が多いです。貝や動物の骨、木の実なども昔のまま発見されることがあります。



【写真5】弥生時代の家のあとが見つかった針江浜遺跡(高島市)



湖底遺跡から なにがわかるの？

実はみんなにとっても
大切なことがわかるん
だ！



【写真5】縄文時代の粟津貝塚の展示



【写真6】弥生時代のたくさんの木の道具の展示（農具と漁具）



【写真7】唐橋遺跡（大津市）の展示



【写真8】平安時代の塩津港遺跡（長浜市）で見つかったおまじない札

湖の底に沈んだ理由は？

びわ湖に流れ込む川は、主なものだけで100本以上ありますが、流れ出る川は南の端の瀬田川1本だけです。この川に土砂がどんどんたまり、流れが悪くなるとびわ湖の水かさが増え、湖岸近くにあった村などは、水の中に沈んでしまうと考えられてきました。しかし、地質学者らによると、びわ湖の底が沈んできているとか、大地震による地すべりも理由の一つといわれるようになりました。

びわ湖はくぶつかんで紹介している湖底遺跡は？

湖底遺跡発見のきっかけになった葛籠尾湖底遺跡や世界で最大の淡水貝塚の一つという粟津貝塚のほか、唐橋遺跡（からはしいせき）なども紹介しています。これは今から1400年前の橋で、東海道が瀬田川をわたる部分の根元の実物を展示しており、これらは当時の朝鮮半島からやってきた人の技術で作られたようです。

さいきん調査された湖底遺跡は？

大地震によってびわ湖に沈んだという伝説が残っていた三ツ矢千軒（高島市）・^な尚江千軒（米原市）・^{しもさかほま}下坂浜千軒（長浜市）を、最近、考古学者と地質学者が共同で調査しました。「千軒」とは「村」の意味ですが、この結果、これらの村はそれぞれ寛文2年（1662年）、正中2年（1325年）、天正13年（1586年）の大地震による地すべりで水中に沈んだといわれています。

湖底遺跡の研究からなにがわかるのか？

昔の湖岸にあった村が、大地震によってびわ湖に^{すべ}滑るように沈んだという事実は、これからのまちづくりや災害を防ぐ計画を立てるときに、大地震へのそなえも必要だと教えてくれます。また、陸上の遺跡の調査だけではわかりにくい昔の人の食生活や生活の道具なども具体的になり、大昔から今日までのびわ湖のまわりの自然環境のうつりかわりもわかるようになりました。

うみっこ トピックス

主任主事 蜂屋正雄 (交流担当)

みんなの学校が博物館に！

地域と学校を応援する「サテライト博物館事業」

「サテライト博物館」という言葉を聞いたことはありますか。サテライトとは、「衛星」という意味ですが、琵琶湖博物館から離れたところに「魚のレプリカ」、「ゾウの化石」、「生き物の標本」、「漁師さんの道具」「昔の道具」などの展示物を置き、ミニ博物館にするのです。でも、みなさんの身の回りにはたくさん「本物」が眠っています。それを集めて地域オリジナルの博物館を創っているところを紹介しましょう。

みなさんの住む、それぞれの地域には「信楽焼」「野洲の銅鐸」「中江藤樹」「バイカモやハリヨのすむ川」など、自慢できるものや場所があり、このことについて調べてもいいでしょう。でも、それだけではありません！

- ・近くの川に魚がいませんか？
- ・近くにある古い家や神社、寺などに昔の道具や日記などは眠っていませんか？
- ・お祭りや地域の特徴ある行事はありませんか？
- ・なにより、いろいろなことをよ〜く知っている人はいませんか。



航空写真をのぞき込む
(空から見たびわ湖)



湖魚のトロ箱
(レプリカで再現)



みんながデザインした看板 (能登川東小学校)

実は、身の回りにはたくさんの「本物」があり、それを集めると「オリジナル博物館」ができます。

そこで、眠っている「本物」を地域の人と一緒に「見つけて」「みんなに見てもらえるように(展示できるように)」しようというのが「サテライト博物館」なのです。

- ・東近江市の能登川東小学校では、能登川博物館の方と一緒に川について調べたり、シルバー人材センターの方と地域のことを調べたりしながら、「ミニミニひがし博物館」をオリジナルな博物館に育てています。
- ・長浜では、地域の方に身近な駅前スペースを活用して、琵琶湖博物館の展示物を置くだけでなく、富永小学校や高月小学校では学習の手助けになる展示物を使って、川、田んぼ、森林の生き物について調べています。

このように、学校の先生、地元の方、そして、子どもたちが協力して、地域オリジナルの博物館を目指して活動しています。みなさんの地域、学校でも「博物館」を作ってみませんか。

琵琶湖博物館ではそんな活動を応援しています。